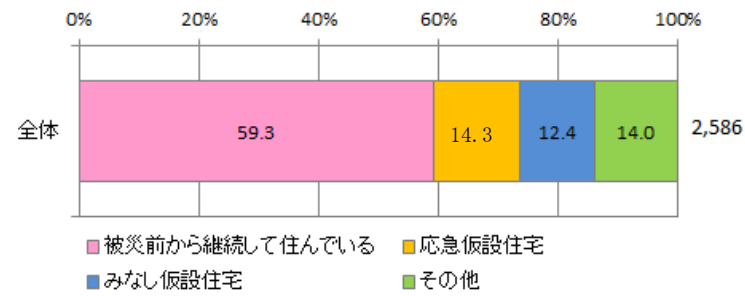


## 東部地区復興まちづくりアンケート結果【全体】

調査期間	: 平成25年12月3日～平成26年1月20日
送布数	: 7,778通
配達数	: 5,771通
回答数	: 2,661通
回答率	: 46.1%

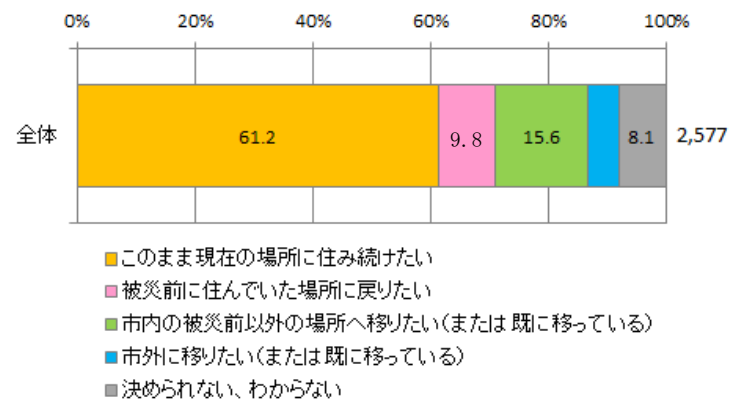
### Q1 現在のお住まい

被災前から継続して住んでいる方は約6割であり、応急仮設・みなし仮設に住む方は3割弱となっています。



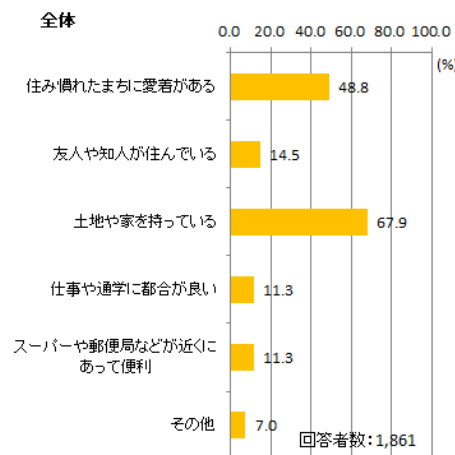
### Q2 今後の住まい

このまま現在の場所に住み続けたいと考えている方は約6割であり、「戻りたい」を合わせると、7割を超えています。



### Q3 住み続けたい(戻りたい)理由

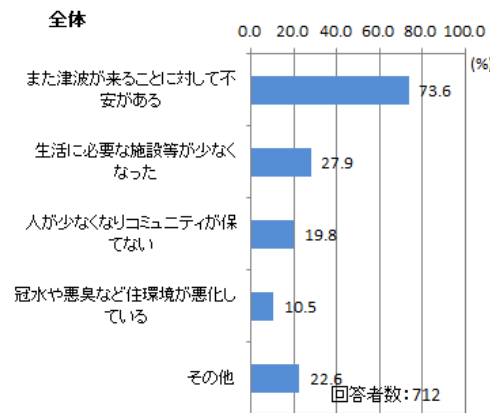
「土地や家を持っている」が最も多く、7割近くとなっています。次いで、「住み慣れたまちに愛着がある」が約半数となっています。



### Q4 地区を離れたい理由

7割以上の方が、「また津波が来ることに不安がある」を挙げています。

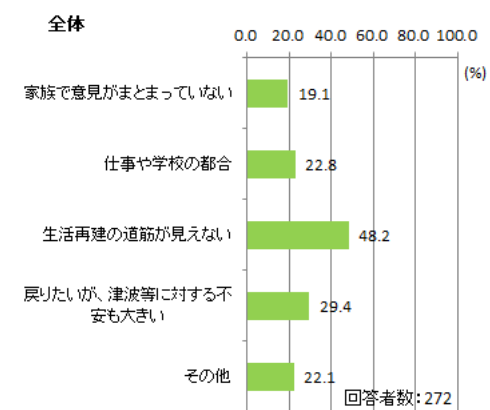
次いで、「生活に必要な施設等が少なくなった」が3割弱です。



### Q5 どこに住むか決められない理由

約半数の方が、「生活再建の道筋が見えない」を挙げています。

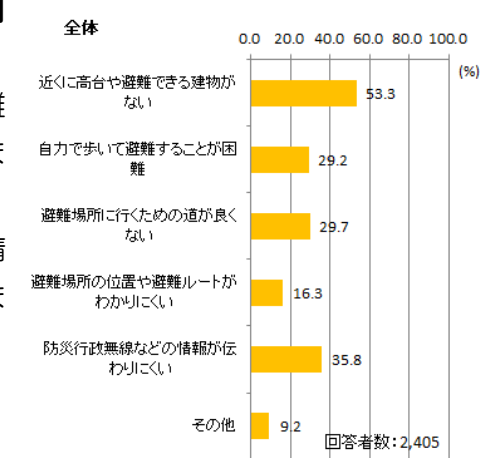
次いで、「戻りたいが、津波等に対する不安も大きい」が3割近くとなっています。



### Q6 津波から避難するために問題と感ずること

半数以上が「近くに高台や避難できる建物がない」を挙げています。

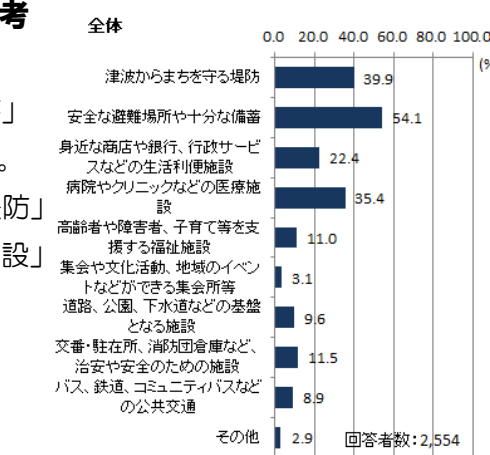
次いで、「防災行政無線などの情報が伝わりにくい」となっています。



### Q7 住み続けるために重要と考えられる施設

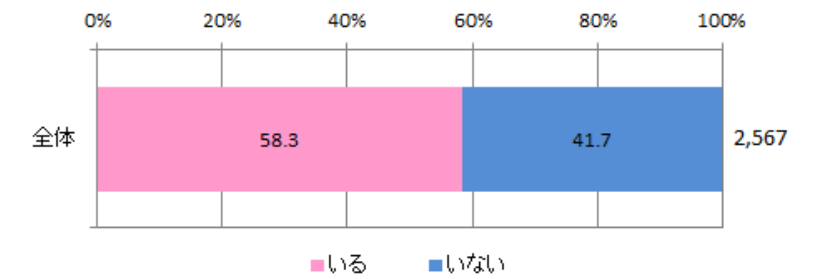
「安全な避難場所や十分な備蓄」が最も多く、半数を超えています。

次いで、「津波からまちを守る堤防」「病院やクリニックなどの医療施設」の順になっています。



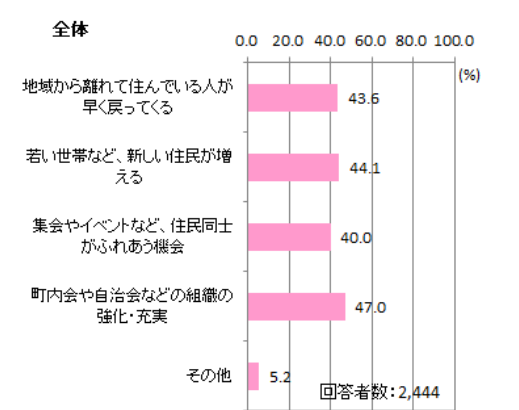
### Q8 日常的に相談や助けあいができる人の有無

「いる」と回答した方は約6割となっています。



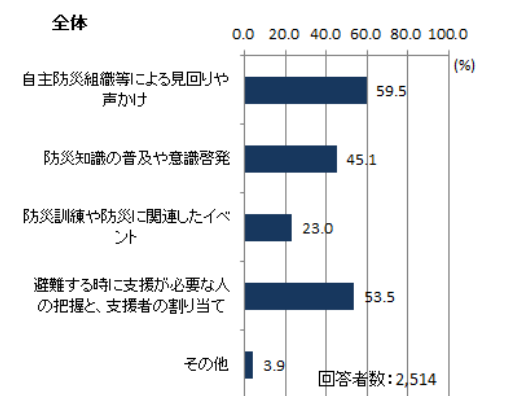
### Q9 コミュニティの再生や維持のために重要と思うこと

「町内会や自治会などの組織の強化・充実」が最も多く、次いで、「若い世帯など、新しい住民が増える」「地域から離れて住んでいる人が早く戻ってくる」の順になっています。



### Q10 安全・安心のために有効と思う活動

6割の方が、「自主防災組織等による見回りや声かけ」を挙げており、次いで「避難する時に支援が必要な人の把握と、支援者の割り当て」「防災知識の普及や意識啓発」と続いています。



### Q16 意見交換などまちづくりへの参加意思

「是非参加したい」「都合がつけば参加したい」「近くで開催されれば参加したい」を合わせると、6割を超えています。

